

平成26年3月8日(土)

資料2

須崎高等学校と須崎工業高等学校の統合に関する検討案について

- なぜ須崎高校と須崎工業高校の統合が必要なのか
- 須崎高校及び須崎工業高校保護者等説明会における主な意見

なぜ須崎高校と須崎工業高校の統合が必要なのか

1 生徒数の大幅な減少

- ◇ 平成以降、中学校卒業生数は約2分の1に減少。10年後には県全体で更に1000人程度、旧高吾学区においても250人程度が減少し、その後も生徒数の減少が続く。

(参考資料1)

【公立中学校卒業生数の推移】

	H1.3 【24年前】	H5.3 【20年前】	H15.3 【10年前】	H25.3 【現在】 ①	H35.3 (推計) 【10年後】 ②	H45.3 (推計) 【20年後】 ③	②-①	③-②	③-①
公立中学校卒業生数	11,776	9,718	7,108	5,639	4,588	3,450	△ 1,051	△ 1,138	△ 2,189
うち 旧高吾学区	2,115	1,743	1,255	958	706	490	△ 252	△ 216	△ 468
うち 須崎市・津野町・中土佐町	766	600	399	321	211	145	△ 110	△ 66	△ 176

2 県立高等学校再編振興計画の基本的な考え方(案)

- 生徒数の大幅な減少を踏まえて、以下のような考え方を位置付けている。
 - ・ 高等学校としての教育の質を維持していくための適正規模について、県全体としては、1学年4学級から8学級とする。

3 統合の必要性

(1) 適正規模の維持

- 生徒数の減少とともに、現在、地域の中学校卒業生のうち5割程度が高知市等の高等学校に進学している状況があることから、このまま須崎高校及び須崎工業高校を単独校として継続した場合には、1学年2学級規模の学校になることが想定される。このため両校を統合することで適正規模を維持して教育環境を整備する必要がある。

【須崎高校、須崎工業高校の学級規模の推移】

学校名	平成15年度		平成25年度			平成34年度(推計)				平成45年度(推計)				
	入学者数	学級数	入学者数	学級数	平成15年度との差	入学者数	学級数	平成15年度との差	平成25年度との差	入学者数	学級数	平成15年度との差	平成25年度との差	平成34年度との差
須崎高校	204	6	109	3	△ 3	74	2	△ 4	△ 1	49	2	△ 4	△ 1	0
須崎工業高校	83	3	108	3	0	77	2	△ 1	△ 1	51	2	△ 1	△ 1	0
計	287	9	217	6	△ 3	151	4	△ 5	△ 2	100	4	△ 5	△ 2	0

※ 平成15年度及び平成25年度の入学者数は実績、平成34年度及び平成45年度の入学者数(推計)は「過去3年間の各校への市町村別平均進学率」と「今後の市町村別中学校卒業生数の推計」による算定。平成15年度の須崎高校の入学者数には久礼分校を含む
 ※ 平成25年度、平成34年度及び平成45年度の学級数は、入学者数を1学級の定員40で除して算出

(2) 南海トラフ巨大地震への対応

将来にわたって安心して学ぶことができる教育環境の整備が喫緊の課題である

- 南海トラフ巨大地震への対応は、すべての学校で取り組むべき重要な課題であり、まずは命を守る取組を進めている。
 - ・ 耐震化工事(全高校でH27完了)
 - ・ 避難道の整備、避難訓練の実施
 - ・ 被災に備えての備蓄
 - ・ BCP(被災後の復旧計画)の策定
- しかしながら、須崎高校については、立地条件から津波等による大きな被害が想定される。
 - ・ 津波浸水の最大想定7m
 - ・ 地震発生後28分で30cm高の津波の到達
 - ・ 漂流物被害
 - ・ 校舎が甚大な被害を受けることが考えられ早期再開が難しい
- 津波のリスクをできる限り少なくするためには、適地への移転が必要である。

(3) 統合の必要性

- 生徒数が減少する中で、高等学校としての適正規模を維持し、将来にわたって安心して学ぶことのできる教育環境を整備するために、須崎高校と須崎工業高校の統合が必要と考え、たたき台として示した。

4 統合後の姿

(1) 拠点校としての適正な学校規模の維持

- 統合によって、高吾地域において、進学から就職まで、生徒の多様な進路希望に対応し、部活動などの活性化により、活気あふれる取組ができる拠点校として、適正規模を維持し、将来にわたって安心して学ぶことができる教育環境を整える。

(2) 拠点校としての教育の充実

- 普通科と工業科が連携することで、大学進学等にも対応できる学力を保証するとともに、体験的な活動を通して職業観・勤労観を養うことで、進学から就職まで、生徒の多様な進路希望に対応できる学校とする。
具体的には、
 - ・ 進学指導の面では、習熟度に応じた授業の実施やきめ細かなカリキュラム編成を行うことで、今まで以上に大学進学につなげる。
 - ・ 就職面では、工業科と普通科の連携を通じて、基礎学力の定着を図るとともに、勤労観や職業観をしっかりと身に付け、希望に応じた就職選択につなげる。などの取組を行っていく。
- 防災教育で地域と連携することや、ドラゴンカヌー大会に代表される地域おこし活動も継承し、積極的に地域貢献にも取り組むことで、社会性や協調性を育成し、地域を支える人材を育成する。
- 部活動の面でも、生徒の希望に応じた多様な部活動の充実を図り、特別活動なども通じて、生徒が切磋琢磨できる環境をつくる。(参考資料2)

5 統合の進め方

(1) 統合に当たってのハード面の整備

- 普通科と工業科が併置する学校として、適切な教育活動が行えるように、須崎工業高校の校舎の増改築や設備の更新、グラウンドの拡張などにより、学習環境を整える。
- 地域の防災拠点としての活用も見据えながら、避難路としても活用できるよう、新たな通学路を整備する。
- 今後、学校の関係者や地域の方々の意見も聞き、また、地元の須崎市とも協議しながら具体的な検討を進める。

(2) 円滑な統合に向けた取組

- 生徒に対しては、再編振興計画に関する議論の状況について十分な説明を行い、安心して学べるよう、しっかりと対応していく。
- 統合に向けては、両校の学科の特色をより明確にするために、須崎高校は、総合学科から3学級規模の普通科に改編し、須崎工業高校は、3学科へと学科改編を行う。
- 普通科と産業系専門学科という目指す方向が異なる学科が融合するには、時間をかけることが必要であることから、統合前から防災教育や部活動などの教育活動で、両校の生徒が連携する取組を実施し、円滑に統合できるようにする。

例えば

- ・ 両校の生徒会活動で、ボランティア活動などの連携した取組の充実
- ・ 部活動での合同練習の推進
- 統合後の新しい学校について、高吾地域の新しい拠点校として学校関係者や地域等への情報提供に努め、地域の中学生や保護者から期待される学校、進学したいと思える学校の実現に取り組む。

須崎工業高等学校保護者等説明会（2／3）における主な意見（抜粋）

- ・須崎工業は就職率 100%で求人も多い。OB会も活発である。この場所は適地であると思うが、カラーの違う学校が一緒になる。
- ・景気が悪くなって求人をやめていた企業が、須崎工業には必ずあいさつに来る。学校名がなくなると、この財産がなくなる。学校名は残してほしい。
- ・工業科を 4 科から 3 科にするということだがどういう基準でやるのか。
- ・改編の際、新しいニーズに合わせた学科も必要になってくる。
- ・人が減っていけば学科改編をとということだと思うが、例えば 40 人ではなく 20 人、20 人で 2 つを残すということもある。
- ・ユニバーサルデザイン科を設置するとき、生徒数が増えたためであると説明を受けたことがある。生徒数が減った場合にはユニバーサルデザイン科を減らすことで、統合しなくても対応できるのではないか。単独校でもやっていけると思う。
- ・学校やOB等が努力しているのに統合とは、努力を認めずにこういう形にするのか。
- ・カラーの違う子どもたちが統合するわけで、地域の意見を吸い上げてくれるのか。説明会等開いてくれるのか。
- ・高知県は短期間で決めてしまうところがある。決まるまでの期間が短いと思う。

須崎高等学校保護者等説明会（2／5、2／10）における主な意見（抜粋）

- ・生徒数の減少と高知市へ通学する生徒が多い地域には、活力ある学校が必要である。
- ・今、須崎高校は進学、須崎工業は就職が 100%であるが、統合すると学力はどのようになるのか。この地域は高知市内への思いが強い。大学進学を考えると高知市内校を選択している。
- ・部活動の部分は理解できる。須崎高校は長い間普通科と商業科の高校であった。社会の変化があるので、単独校が良いのか、統合校が良いのか分からない。統合校のイメージがわからない。どんな高校を目指すのか。
- ・工業は改編して 3 科にして統合すると書いているがどう変わるのか。新たな通学路は現在の通学路とは別ルートになるのか。
- ・須崎工業高校の敷地は、運動場の方は地盤が弱い。校舎は地盤が強いところに建設している。通学路は地震時には崩壊する可能性がある。
- ・須崎工業高校へ移転した場合、現在、駅から本校まで 10 分であるが、25～30分になる。

- ・親として津波についてはとても心配である。学校に預けると学校にお任せである。今回の計画は、地震への備えが先走り、統合後の学校の中身が後付けとなっているように感じる。
- ・生徒数が減少するから、適正規模を維持するために須崎高校と須崎工業高校を統合するのか。
- ・検討案は地域の実情を理解しないで、さらに工業科と普通科のことを知らずに考えているのではないか。
- ・前回の南海地震の時、津波は来ていないし、校舎は20m位杭を打ち込んで建設しており水はけもよく、津波が来ても大丈夫である。
- ・報告書では、総合学科は現在の配置が望ましいとある。また、工業と総合学科の高校は各地に適正に配置されていると思う。
- ・生徒の意見が大切であると思う。この須崎高校の統合について生徒自身はどういう思いを持っているのか。
- ・パブリックコメントはより良い計画にするために実施するのか。それともこの案を押し通すために実施するのか。
- ・今のPTAのメンバーは将来の統合する時期には学校に関わっていない。これから関わる世代である小学校、中学校の保護者への説明、情報提供をしてもらいたい。